

県営第二菘谷地区土地改良事業（農用地の保全）変更計画概要書

1 計画変更の内容

項 目	変 更 前	変 更 後	増 減
地 域	球磨郡湯前町	球磨郡湯前町	—
地 積	76.2ha	76.2ha	— ha
主 要 工 事	ため池施設整備 (取水施設等) 1式	ため池施設整備 (取水施設等) 1式	—
工事着手及び完了予定時期	R2年度 ～R4年度	R2年度 ～R9年度	5年
総 事 業 費	216,300 千円	375,208 千円	158,908 千円
(うち事務費)	10,300 千円	17,867 千円	7,567 千円

2 計画変更を必要とする理由

(1) 事業費の変動

ため池の底樋改修に係る発進立坑、到達立坑及び推進工の工法変更等に伴う事業費の増
当初 206,000 千円 → 変更 357,341 千円 151,341 千円の増
(うち物価変動 53,560 千円)

3 変更後の土地改良事業計画の概要

(1) 事業の目的

本ため池は、球磨郡湯前町に位置し、湯前町南部地域の干ばつ対策として昭和 16 年に菘谷川をせき止めて築造され、水田約 76.2ha にかんがい用水を供給している。

受益農地では、水稻を中心にトウモロコシ、牧草、キュウリ等の栽培が盛んである。

本ため池は、昭和 60 年に堤体や取水施設等が改修されたが改修後 30 年以上が経過し、特に未改修の底樋管は、ひび割れや打ち継ぎ目の乖離等が多数確認され、漏水が生じている。さらに、取水施設のバルブ等は破損し、維持管理に支障をきたしている状況にある。

このまま放置しておく、と、取水施設等の機能低下により、堤体からの漏水等を助長し、破損につながる恐れがある。

このため、本事業により、取水施設（斜樋）及び底樋管を一体的に改修し、取水施設の機能回復と堤体被害による災害を未然に防止し、ため池下流域の農地・農業用施設等の保全、農家経営の安定化を図るものである。

(2) 施行に係る地域の所在、地積及び現況

① 地域の所在 球磨郡湯前町

② 地 積 (単位: ha)

地 目 市町村名	現 況					計 画				
	田	畑	道水路	その他	計	田	畑	道水路	その他	計
球磨郡 湯前町	76.2 (76.2)	—	—	—	76.2 (76.2)	76.2 (76.2)	—	—	—	76.2 (76.2)
計	76.2 (76.2)	—	—	—	76.2 (76.2)	76.2 (76.2)	—	—	—	76.2 (76.2)

上段: 変更後、下段: 変更前

③ 現 況

1) 地 形

球磨郡湯前町の東部に位置し、九州山脈の山裾にあたり、山地と平地の斬移部に位置する。受益地は国道 219 号線に沿って東から南西方向に傾斜した水田地帯で、標高は 205m ~ 235m 程度、地形勾配は 1/100 未満からになる。

2) 水利状況

a 用水状況

本ため池の放流河川である蓑谷川が主要水源であり、蓑谷川に設置された上溝堰から、ほ場整備事業等により整備された開水路を通じてかんがいしている。

b 排水状況

ほ場内の排水路を通じて仁原川から球磨川に排水されている。

3) 道路状況

ほ場整備事業等により整備された農道を利用されている。

4) 営農状況

水稻中心の営農であるが、一部で青刈りとうもろこし、牧草、キュウリ、葉たばこ、トマト、メロン等の栽培も行われている。

本地区の土壌は、沖積層からなり土性は黒色土壌（粘土火山腐植型）である。

5) 地域環境の状況

a 植 物

町指定の天然記念物として、2本の檜があるが、本地区の植物はほとんどが人口林である。

b 動 物

町内の水路・川辺にはホタルが生息し、絶滅危惧種のメダカ・タナゴなども数は少ないものの生息しているが、本地区では確認されていない。

c 景 観

本地区は球磨盆地の中にあり、丘陵部の裾野に築造されたため池を用水源とし、国道219号線沿いに広がる整備された水田地帯である。

(3) 基本計画

① 要 旨

本ため池は地区の主要水源であるが、施設が古く、取水施設や放流施設（底樋管）の劣化等に起因する災害の発生が懸念されている。

よって、災害を未然に防止し、本地区の安全安心な農業を確立するため、本事業により老朽化したため池（取水施設、放流施設等）の改修、整備を行う。

② 事業別面積

ため池 水田 76.2ha

③ 用水量及び排水量

用水量：所要用水量 0.213 m³/s

排水量：設計洪水量 150.99 m³/s

(4) 工事計画

ため池施設整備（取水施設等）1式

(5) 環境との調和への配慮

本事業においては、地域環境情報会議の意見を考慮し、環境への影響を緩和するよう以下のとおり配慮を行う。

① 生態系の配慮について

工事期間中に、工事区域内で希少動植物が発見された場合は、安全な区域へ移動又は誘導する。

② 景観への配慮について

工事の施工範囲を最小限にとどめ、土羽裸地部の縮小、又早期の植生回復を図る。

③ 工事施工時における配慮について

工事着手に先立ち池内の貯留水を落水する必要がある、落水は極力時間を掛けて行う。
また、下流河川への濁水対策については、汚濁防止フェンス等を設け、濁水の流出を抑制し、洪水対策については、仮排水により通水断面を確保し、円滑な流下に努める。

(6) 換地計画の要領

該当なし。

(7) 費用の概算	変更後	(変更前)
主要工事費	341,464千円	(193,000千円)
測量及び設計費	11,877千円	(13,000千円)
用地費及び補償費	0千円	(0千円)
換地費	0千円	(0千円)
工事雑費	0千円	(0千円)
小計	357,341千円	(206,000千円)
地方事務費	17,867千円	(10,300千円)
総事業費	375,208千円	(216,300千円)

(8) 事業の効果

(単位:千円)

区 分 \ 項 目	年増加見込効果額	年増加見込所得額
作物生産効果	47,911 (42,703)	— (—)
営農経費節減効果	△11,269 (△ 8,557)	— (—)
維持管理費節減効果	△14,423 (△13,482)	— (—)
災害防止効果 (農業関係資産)	12,307 (9,592)	— (—)
災害防止効果 (一般資産)	889 (462)	— (—)
災害防止効果 (公共資産)	— (—)	— (—)
水源かん養効果	92,363 (71,397)	— (—)
国産農産物安定供給効果	7,119 (5,917)	— (—)
合 計	134,897 (108,032)	— (—)

(9) 地区を数区に分けた場合は、その旨及び理由
該当なし。

(10) 他事業との関係
該当なし。

(11) 計画概要図
別途図面参照